

第3回 医療機器開発シンポジウム

–医療のICT化と医薬品・医療機器等開発に与えるインパクト–

慶應義塾大学橋渡し研究支援拠点では、昨年度に引き続き、医療機器開発人材の啓発を目的と致しまして、第3回医療機器開発シンポジウムを開催いたします。

今回は、「医療のICT化と医薬品・医療機器等開発に与えるインパクト」をテーマにオンラインで開催します。近年、ICTの進化に伴い、ICTの医療への活用もますます加速しております。本シンポジウムではICTを活用した新たな診療モデルの創出の試み、医療データの活用による医療の質の向上の取り組みについて、最新の活動、病院におけるICT導入の実例を紹介いたします。また、医療のICT化による医薬品・医療機器開発における臨床研究の進め方

の変容、開発のあり方に与えるインパクトなどについて議論を行います。副島先生を総合座長とし、演題は、矢作先生から今後の医療のICT化による医薬品・医療機器開発に与えるインパクトについて、陣崎先生から慶應義塾大学病院のAIホスピタルの取り組みについて、土井先生から国立がん研究センター東病院における柏の葉スマートシティと連携した“新たな病院と街のモデル”についてご講演いただきます。最後に、3人の先生方によるラウンドテーブルディスカッションを予定しております。

医薬品・医療機器等製品の開発に興味をお持ちの研究者・開発関係者、病院関係者に広くご参加を頂ければと思います。

プログラム

18:00 開会の挨拶

松本 守雄

慶應義塾大学病院 病院長、慶應義塾大学医学部 整形外科学教室 教授

講演総合座長:副島 研造

慶應義塾大学病院 臨床研究推進センター 副センター長、TR部門長 教授

18:05-18:45

競争戦略から見た、医療のICT開発と これからの臨床研究、医薬品・医療機器開発のあり方

矢作 尚久 慶應義塾大学 政策・メディア研究科、環境情報学部 准教授

[略歴]

2000年 慶應義塾大学医学部卒業
2004年 横浜市立市民病院 小児科
2007年 国立成育医療研究センター 臨床研究フェロー、2011年 同専門職
2013年 同臨床研究ネットワーク推進室 室長補佐
2015年 同データ科学室 室長代理
内閣官房次世代医療ICT基盤協議会等 構成員歴任
2017年 現職

[講演概要]

日本の医療を支えている「臨床の強み」を競争戦略の中心に据え、諸外国の後追いをすることなく、臨床と医療に真摯に向き合った技術開発は、患者・医療の関係性からデータ、技術を紐解く必要がある。今後の医療は、バイオロジーと同等以上にICTによる開発が中心的役割を担うが、ICTの医療転用程度に留まっている現状に未来はない。グランドデザインとシステムデザインの上に臨床・ICTの理論展開は必須であり、30年先を見越した先駆的なプロジェクトとして、革新的な臨床技術の一般への応用と展開は、ICTだからこそ実現可能である。また、Only One技術のICTを駆使した同時多発開発の実現は、業務改善と効率化による大幅な医療費抑制と同時に、限られた医療資源を高度に最適化させ、質と効率を両立する社会の実現に寄与する。



18:45-19:15

慶應義塾大学病院のAIホスピタルの取り組み

陣崎 雅弘

慶應義塾大学病院 副院長、慶應義塾大学医学部 放射線科学(診断)教室 教授

[略歴]

1987年 慶應義塾大学医学部卒業、慶應義塾大学放射線診断科入局
1991年 日本钢管病院医員
1999年 Harvard 大学付属Brigham and Women's Hospital 放射線科留学
2000年 慶應義塾大学医学部放射線科学助手、2006年 同講師、2009年 同准教授
2014年 慶應義塾大学医学部放射線科学教授

[講演概要]

慶應義塾大学病院は2018年から内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)の1つとして、「AIホスピタルによる高度診断・治療システム」の社会実装プロジェクト(AIホスピタル事業)を行っています。このプロジェクトは、現時点で活用可能なICT、AI技術を病院内に実装し、患者に安心・安全で高度な先進医療を提供しながら、医療従事者の負担軽減することを目指しています。AIに興味を持っている人だけが関わるのではなく、すべての診療科やあらゆる事務部門が関わり、病院全体でこのプロジェクトを推進することにより、組織変革をおこしていくことを目指しています。



19:15-19:45

NCC東病院と柏の葉スマートシティが連携した “新たな病院と街のモデル”的取り組み



土井 俊彦

国立がん研究センター東病院 副院長(研究担当)、
先端医療科長 消化管内科医員
国立がん研究センター 先端医療開発センター新薬臨床開発分野長

[略歴]

1989年 岡山大学医学部卒業
1994年 国立病院四国がんセンター 内科
2002年～ 国立がんセンター東病院 内視鏡部・病棟部・治験管理室にて室長を歴任
2012年～ 国立がん研究センター東病院 早期・探索臨床研究センター フェーズIユニット長、早期・探索臨床研究センター先端医療科 科長を歴任
2014年 国立がん研究センター東病院 副院長(研究担当)、消化管内科 科長
2015年～ 現職

[講演概要]

国立がん研究センター東病院では、「世界最高のがん医療の提供」と「世界レベルの新しいがん医療の創出」の2つのミッションを掲げ、併設する先端医療開発センター(EPOC)と連携して国内外に先駆けて開発を実施している。柏の葉が位置するつくばエクスプレス沿線は、さまざまな学術・研究機関やインキュベーション施設が集まり、そのポテンシャルを活かし、あらゆる視点から新産業を創出する街づくりを目指しており、東病院は、スマートシティと一体化したスマートホスピタル、データ駆動型または機能拡張型ホスピタルとして生まれ変わろうとしている。現在進行中のいくつかの取り組みについて発表させていただく。

19:45-20:00

ラウンドテーブルディスカッション

- ・医療へのICTの実装における課題
- ・医薬品・医療機器等開発(治験)などの効率化・迅速化に与える影響
- ・開発工程のパラダイムシフト

20:00 閉会の挨拶

陣崎 雅弘

慶應義塾大学病院 副院長、慶應義塾大学医学部 放射線科学(診断)教室 教授

慶應義塾大学病院 臨床研究推進センター主催

第3回 医療機器開発シンポジウム

日時: 2021年10月7日(木) 18:00~20:00

形式: ウェブによるオーブンシンポジウム

テーマ: 医療のICT化と医薬品・医療機器等開発に与えるインパクト

対象: 医薬品・医療機器等製品開発に興味のある

研究者・学生・アカデミア関係者、病院関係者、企業等

参加: 無料・要申込

参加申し込みは、下記URLまたはQRコードより、

本イベント参加フォームへアクセスしてお申し込みください。

https://keio-univ.zoom.us/webinar/register/WN_KW0o88jVRj6maX8otE7iXg

お問合せ先 慶應義塾大学病院 臨床研究推進センター TR部門(担当: 松岡)

TEL: 03-5363-3474 (内線63744) Mail: apply-tr@ctr.hosp.keio.ac.jp

